

ブロック研究

2025. 12. 8

幼稚園・こども園会では、毎年、研究を行っている。小学校や中学校でも行っている。研究をするのが当たり前になっている。研究というのは、外部への公表、外への発信が前提となっている。そのため、研究のまとめという作業を伴うことになる。それは、研究論文だったり、実践記録だったりする。それらを研究作品や研究物と呼ぶこともある。

福島地区国公立幼稚園・こども園会では、ブロックに分かれて研究を進めている。いわばグループ研究である。この方法には、メリットもデメリットもある。何でもそうだが、メリットを最大限に生かすことが大切である。

教員にとって、研究は宿命ともいえるものである。だが、そのわりには、研究の手法を教えてもらう機会が少ない。これは、どういうことなのだろうか。だから、先生方は、これでいいのかな、どうなのかなと暗中模索のまま進むことになる。それでも、経験を積んでいくと、それ相応のものが身についていくようになる。

教えてもらえないのであれば、自分で勉強するしかない。私も、まだ若い頃だが、研究の進め方がわかる書籍を4冊購入して勉強した。そうでもしなければ、何となくやっているだけで、まとめ方がわからないままになる。せつかく、いい実践をしたとしても、まとめ方がよくなければ、人には理解されない。

我が園の若手教員が、ブロック研究の班長を任されている。責任をもって、ブロック研究をまとめる役目を担っている。こういった機会が、研究の進め方、まとめ方を勉強するチャンスである。

『初めての教育論文 現場教師が研究論文を書くための65のポイント』という本を預けた。いわば研究の手引書である。困ったときに、すぐるものがあることが重要である。このような本は、時間があるからといって読むかというところでもない。必要に迫られて読むのである。それでいい。

一度、研究の手法がわかると、その後はスムーズにまとめることができるようになる。何事もまとめ方は重要である、すなわち、相手への伝え方である。研究には、一貫性、整合性が求められる。そのため、柱のようなものがあるとよい。あれもこれもとなりがちだが、間口を狭めて、深くやっていくのがよい。そうすると、おもしろくなってくる。

ブロック研究には、いくつかのメリットがある。その一つが人材育成である。若手を育てることである。若手の成長とともに、ブロック研究が意義のあるものになることを願っている。